

- | | | |
|---|-------|-------------------------------|
| 1 | 名 称 | もとまちやたい かんれんしりょう
本町屋台と関連資料 |
| 2 | 員 数 | 一括 |
| 3 | 区 分 | 有形民俗文化財 |
| 4 | 所在の場所 | 須賀川市本町地内 |
| 5 | 所 有 者 | 本町町内会 |
| 6 | 指定内容 | 別添のとおり |
| 7 | 指定の事由 | |

本町屋台は本市本町町内会が所有する屋台で、本市諏訪町に鎮座する神炊館神社の祭礼にあわせて披露されてきた屋台の一つである。

神炊館神社の祭礼と屋台は江戸時代から深い関わりがあり、『須賀川古事来由記録』などの江戸時代の古記録や古文書などによると、屋台は須賀川宿の各町で組み立てられ、「狂言」や「児輩（子どもたち）による舞踏」など、いくつかの演目が披露されていたことが分かっている。本町においても寛保2年（1742）～寛政4年（1792）の間と推定される古文書に屋台に関する記載が確認でき、この頃には所有していたと考えられる。

明治時代以降も屋台は各町で披露された。当該屋台は、明治24年（1891）の須賀川の大火や明治31年（1898）の衝突事故などにより損傷したが、明治33年（1900）頃に大規模な修繕が加えられた。以後、当該屋台は「踊屋台」、「手踊屋台」、「花屋台」といくつかの名称で呼ばれながら、昭和44年（1969）まで断続的に組立てられたことが、本町町内会に伝えられた「本町文書」などによって確認できる。

その後、道路事情の変化等により約半世紀の間、屋台の披露はなかったが、令和2年（2020）に組み立てられ、翌年には須賀川市民交流センターtetteで一般公開された。

神炊館神社の祭礼において各町で披露した屋台（以下「祭り屋台」とする）は、回り舞台で構成され、袖舞台が取り外しできるなどの工夫が施されている。また、屋台全体が重厚かつ華麗な彫刻と金欄などの織物で装飾されている。

当該屋台については、現在でも舞台が回転するとともに彫刻なども良好な状態で保存され、「祭り屋台」の特徴を現認できるものとして貴重である。このため、当該屋台の保護を図ることにより、他の屋台の実態解明にも大きく寄与するものと考えられる。

また、屋台の歴史についても「本町文書」により窺うことができ、歴史資料に裏付けされたものとしても価値があると言える。

以上のことから、本町屋台を市指定文化財に指定しその保護を図るものである。

なお、本件には関連資料として、明治時代から昭和時代の「本町文書」710件と、屋台を披露する際にあわせて奉納された鉾と旗4組を含む。



屋台正面



回転する様子